

# 「共存できる街」仮想空間に

人気ゲーム「マイクラフト（マイクラ）」の教育版を使った作品コンテスト「マイクラフトカップ全国大会」で、プログラミングを学ぶ瀬戸市の非営利クラブ「コーダー道場瀬戸」の小中学生チーム「フュージョン！」が、ヤング部門の優秀賞に輝いた。ゲームの仮想空間内に、人々が互いを理解しながら共存できる街を表現した。

（山本克也）

## マイクラフトカップ全国大会

マイクラは、仮想空間内にとを建築し、そこを冒険できブロックで橋や道路、建物なるゲームで、教育の場でも活



マイクラフトカップ全国大会で優秀賞に輝いたチーム「フュージョン！」のメンバーたち＝瀬戸市内で

## 瀬戸のクラブの子どもたち 優秀賞

用の機会が広がっている。大会は公益社団法人などで行く運営委員会が開催。5回目の今回は「持続可能な社会」を課題とし、全国から500点の応募があった。

瀬戸市や尾張旭市、名古屋守山区などに住む小4〜中の7人で行くチーム「フュージョン！」は、東海ブロックで最優秀賞となり、瀬戸の道場のチームで初めて全国切符を獲得。2月に東京であった全国大会で作品をアピールした。

作品は、果物のデザインで多様性を表現したホテルなどが入る「シンボルツリー」を街の中心に据え、周辺の八つの地域を橋で結んだ。各地域では、光ファイバーを通じて地球の裏側から得た光をエネルギーとして活用。車道を地下、歩道を地上に設けて交通事故のリスクを軽減し、ロボットによる農作業の自動化や、性差に関する悩みを相談できるクリニックの設置など

も盛り込んだ。

制作には数カ月をかけ、昨夏に完成させた。7人は通う学校がそれぞれ違い、定期テストや部活動などもあって、全員が集まれる日はわずか。それでも、1人の意向で方針が決まったり、指示待ちになつたりしないよう、リーダー

役は設けなかったという。ビデオ通話でアイデアを出し合い、ビジネスでも使われる計画表「ガントチャート」で、全員のスケジュールや担当する範囲を共有。「融合」を意味するチーム名の通り、心をつなげて制作を進めた。

7人は「準備も作品もテーマ通りにでき、うれしい」と上位入賞に感激。尾張旭市西中2年の細川瑛介さん(14)は「みんなで一つのことに向かうのは大変だが、グループワークを通して協調性がより身に付いた」と喜びを話した。

◇チーム「フュージョン！」の他のメンバーは次の皆さん

- 西川巧真(みよし市三好丘中2)
- 森永暉史(名古屋守山守山北中2)
- 近藤にこる(愛知教育大付属名古屋中1)
- 西垣拓海(多治見西高付属中1)
- 西本充孝(長久手市南小6)
- 近藤銀河(名古屋市大森小4)



「マイクラフトカップ全国大会」の模様を紹介するYouTube動画はQRコードから